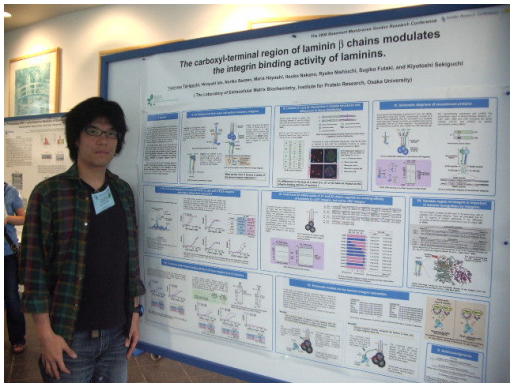
BMC プログラム・海外派遣報告書

蛋白質研究所　細胞外マトリックス研究室
生物科学専攻　博士課程後期3年　谿口　征雅

参加学会：Gordon Research Conference –Basement membrane Meeting–
会場：University of New England (ME, USA)
派遣期間：2008.06.21–29



BMC プログラム・海外学会発表派遣の御支援の元、私はニューイングランド大学（米国・メイン州）にて催された Gordon Research Conference (GRC) の基底膜会議に参加し、ポスター発表を行いました。この大学は米国のボストンから更に東北部に位置しており、閑静で自然豊かな環境にあるすばらしい会場でした。

私は「自分の研究を同じ分野の研究者に報告し議論すること」、そして、「研究を更に発展させるための戦略を建てること」を目的とし GRC に参加しました。通常の学会とは異なり、GRC は同じ研究分野の研究者が寝食をともにし、研究の議論を行います。自分の研究成果に関して議論することを欲している研究者の集会ですから、当然、就寝近くまで議論します。おかげで多くの研究者と時間をかけて議論することができ、当初の目的を十分に達成することができました。わずかな期間の会議でしたが、この環境は私にとって今までに感じたことのないすばらしい刺激をあたえてくれました。また、自身の研究分野における自分のポジションや今後の動向を知ることができただけではなく、多くの研究者と交友できたことが、何物にも変え難いすばらしい経験でした。

苦い経験もしました。それは英語での会話です。ポスター発表や講演などデータや図という物言わぬ媒体があると、話し相手の言うことが少々理解できなくても話の内容は大方理解できます。しかし、研究以外の会話、例えば食事中などに行われる雑談のスピードにはほとんどついていくことができません。知っている単語を拾い会話の内容を理解しようと試みる、この

繰り返しです。次回の海外渡航までに英会話の能力を高める必要があることを痛感しました。もうひとつ苦い経験は食事です。噂には聞いていましたが、脂っこい食事が多いです。ケーキ（写真参照）の甘さには驚きました。米国に留学された方々の多くが肥えたとおっしゃいますが、十分に納得できました。

論文で見かけた名前しか知らない人や同じ研究分野の若手に会い、話をする。私にとって非常にエキサイティングな時間でした。次回の GRC が楽しみでなりません。最後になりましたが、GRC 参加の機会を与えてくださった細胞外マトリックス研究室の関口清俊教授をはじめとする共著者の皆様、研究推進のためにサンプルを分与してくださった皆様、そして、経済的な御支援をくださった BMC プログラムと関係者の皆様に深く感謝いたします。

2008 年 7 月 1 日